

現場訪問

●東京ガス(株)

# 50歳以上のベテランドライバーに 気づきを促す安全運転研修

東京ガス(株) (本社・東京港区)は「社内運転ライセンス制度」

「安全運転指導員制度」職場における添乗訓練」「本社主催の交通安全教育訓練」の4本の柱を基本として社員への交通安全教育に力を入れている。「本社主催の交通安全教育訓練」の一つとして、シニア安全運転研修がある。これは、50歳以上の社内運転ライセンス取得者を対象とした研修である。

この安全運転研修を実施している背景を同社人事部安全健康・福利室の及川博さんは次のように話す。

「社内運転ライセンス取得者約4500名のうち、50歳以上は約1800名になります。60歳で退職せずに再雇用されるケースも増えていることから、こうした年齢層への安全運転教育も必要だと考え、開始しました。研修は年間20回開催しており、希望すれば受講

できるようにしています」。

7月12日、シニア安全運転研修が交通安全センターレインボー埼玉で開催された。まず座学で、インストラクターが加齢による運転への影響や、年齢に見合った安全運転の必要性を受講者に説明。そして、トレーニングコースに出て、日常点検のポイント、正しい運転姿勢、クルマの死角を確認した後、実技が始まる。

最初は狭路走行。受講者はパイロンで囲まれた狭い場所、何度も降車してパイロンの位置を確認したり、切り返しをしながら縦列駐車と車庫入れを行う。

昼食をはさんで、午後からは反応制動やパイロンスラローム、パイロンスラロームでは練習の後、「スタートからゴールまでの基準タイムは15秒です」とインストラクターが各自の走行タイムを測る。計測が終わると、「皆さん、スタートする時にきちんと

右後方の安全を確認しましたか? 時間を気にしなければいけない場面でも、冷静になって安全確認することをお忘れください」とインストラクターがアドバイスした。

最後は教室に戻り、動画KYT(危険予測トレーニング)



狭路での車庫入れ

※動画KYT=実際の交通状況を再現した動画を見ながら危険を予測し、結果を参加者同士が振り返って議論することで安全を学ぶ教育機器。詳しくは以下のホームページを参照。  
[http://www.honda.co.jp/safetyinfo/animation\\_kyt/](http://www.honda.co.jp/safetyinfo/animation_kyt/)



動画KYTを活用した演習



パイロンスラローム

ング)を活用した演習が行われ、シニア安全運転研修は終了した。

研修を視察した及川さんは、「この研修は訓練ではなく、本人の気づきを促す機会と位置づけています。こうした体験をすることで、若い頃との感覚や能力の変化に気づいてもらえるはず。そうした変化を自覚することが事故防止につながると思います」と語った。

## NEWS REVIEW

# 1 「2013モトパラダイス関東」で ライディングレッスンを開催

●関東二輪車協会

7・9月は「バイク月間」で、期間中は二輪車関連団体が二輪車の交通安全啓発や有用性を訴求するイベントを展開している。その一環として、7月6、7日の両日、苗場スキー場(新潟県湯沢町)で「2013モトパラダイス関東」が実施された(主催・関東二輪車協会)。20回目を迎えた今回は2日間で1000名近いライダーが参加した。



「柏秀樹のライディングレッスン」には2日間で32名のライダーが受講



発進・停止の練習で受講者に正確な運転操作を身につけてもらう

会場では集まったライダーに安全運転技術を身につけてもらうためのイベントとして、「柏秀樹のライディングレッスン」が開催された。講師はバイク雑誌などで活躍しているモータージャーナリストの柏秀樹さん。今回は、歩く速さでバイクをスムーズにUターンさせることが目標だ。「これはベテランの方でも上手くできない人がいます」と柏さんはいう。「今のバイクは、平らな場所ではアイドリングの状態でもクラッチをつなげば進んでいきます。多くのライダーはUターンの時にクラッチを切ったりつないだりしますが、初心者にはこの操作が転倒の原因になります。だから、歩く程度の速さになったところでクラッチを固定したまま、その状態でUターンすればいい。途中でクラッチ操作を加えるからエンストするリスクが高まるのです」。

前半は、ゆっくりとクラッチをつないでバイクを発進させ、アクセルを徐々に開けていくという練習を繰り返す。「正確な運転操作を身につけてもらうことがねらいです。アイドリング回転でクラッチをつながらを感じることも、まっすぐ、フラフラかないように発進・停止ができるようになることがポイントです」と柏さん。

後半は歩く速さでのUターンを練習。受講者には両足を出した状態で取り組んでもらう。「最初からステップに足をのせてやると、緊張して身体が硬くなります。両足を出せば、リラックスしてクラッチ操作に集中できるのです」。そして、柏さんは受講者の練習を観察しながら、一人ひとりにアドバイスした。

愛車のホンダCBR250Rで神奈川県から参加した大江将悟さんは「バイクに乗って始めて1年ほどになりますが、低速になった場面での操作が難しいと感じていました。低速でバイクを安定して扱うためのコツを知りたいと思います、このレッスンに申し込んだというわけです。アクセルやブレーキ、クラッチをゆっくりと確実に操作するというのが運転の基本であることを理解できました」と感想を話した。



Uターンの練習では柏さんが一人ひとりのレベルに合わせてアドバイス

# 2 全国47都道府県の代表が二輪車の安全運転技能を競う

●第46回二輪車安全運転全国大会

8月3、4日の両日、鈴鹿サーキット交通安全センター(三重県鈴鹿市)にて「第46回二輪車安全運転全国大会」が開催された(主催・二財)全日本交通安全協会。二輪車安全運転推進委員会。同大会は、二輪車安全運転技能と交通マナーの向上を図ることに、昭和43年から毎年開催されている。競技は、法規履行走行と技能走行。女性クラス(50cc)、高校生等クラス(50cc)、一般Aクラス(400cc)、一般Bクラス(1100cc)の4クラスに分かれて、全国47都道府県の代表選手185名が各クラスの個人賞と各クラスの得点を合計した総合得点で団体賞を競う。



大会2日目には、記念式典が国際レーシングコースにて開催され、出場選手全員によるパレードが行われた。大会成績は、団体優勝が京都府、2位・神奈川県、3位・東京都。個人賞は、女性クラス・橋口雅美さん(京都府)、高校生等クラス・岩崎雅史さん(滋賀県)、一般Aクラス・小倉剛さん(神奈川県)、一般Bクラス・橋本広昌さん(兵庫県)が優勝した。

女性クラスで優勝した橋口さんは「京都府の初優勝を実現できて、本当に嬉しいです。極度の緊張から体調を崩してしまいましたが、最後まで走りきれて良かった」と喜びを語った。